



笹小だより



⑪令和4年11月28日号

伊丹市立笹原小学校

進む情報教育 『教育ICT展』を開催！



いよいよ二学期もまとめの時期となりました。12月1日から、各学級で個人懇談会が始まります。年末のお忙しい時期とは思いますが、お子様の学校・家庭での様子、学習についてなど、是非担任とお話しくださいますようお願いいたします。短時間ではありますが、それぞれのお子様にとって必要なこと、頑張り、目指していくことなどを話せる内容の濃い時間となりますことを願っています。

さてすでにご案内の通り、この懇談会に日を合わせて、日頃の学校での情報教育の様子的一端をご覧いただく『笹原小学校教育ICT展』を開催いたします。このICT展では、現在貸与されている一人1台のタブレットを授業の中でどのように活用しているかや学習課題のことなどについて、また今後宿題をはじめ家庭学習で大きく活用される予定の『AIドリル・ドリルパーク』の体験コーナーも設置しています。お子様になったつもりで、お手にとってご覧ください。



会場では、5年生が10月12～14日に2泊3日で行った「自然学校」や、6年生が10月5～6日に実施した「修学旅行」の様子も写真や動画、また一部まとめの作品を通して紹介しています。保護者の皆様に、なかなかお伝えしにくい現地での子ども達の様子を感じていただければと考えています。

学校教育の中でも、年々ICTの活用は進み、コロナ禍が終息しないことも追い風となり、日々の授業の様子も大きな変化を遂げつつあります。かつてのように「わからない言葉や事柄を調べる」だけでなく、自分の考えを何度も推敲しながら「まとめたり」、他の人と画像を効果的に使って「意見・情報交換」したり、友だちの考えを共同閲覧機能を使って知り、自分の考えと比較・反映させたりしています。実に多彩な手法により、授業の幅も広がりつつあります。現代の子ども達は、少し慣れると活用力は大人が想像している以上だといっても過言ではありません。

現在はどの学年でも、長期休みはもとより、週2・3回はタブレットを使った宿題が出ています。また12月からは、AIドリル（ドリルパーク）の活用により、宿題に加えて予習や復習、発展学習などの家庭学習も大きく進むことが予想されます。やる気を持って始めると、どんどん自分の学びを深め定着させることが可能となります。これまでの既習事項でも、学年を遡って個々の実態に合わせて学ぶこともできます。ぜひ意欲的に取り組み、学ぶということも好きになってほしいと思います。

そして、これからさらに情報化が進むであろう時代を生きていく子ども達に、溢れる情報の中で本当に必要なことを自分で選び、自分で考え判断し、表現する力をつけて、粘り強くあきらめることなく力強く生きぬいてほしいと心から願っています。

この『笹原小学校教育ICT展』は、タブレット導入時期である本年度に限り、保護者や関係者の皆様と情報共有を進めるため開催を計画したものです。検温や手指消毒、マスクの着用、密集の回避などのコロナ対策にご協力いただきながらのご来場をお待ちしています。

南中・笹原中 トライやるウィーク始まる

兵庫県では中学2年生を対象として、1998年度から今に至るまで地域での様々な体験活動の一つとして「トライやるウィーク」が続いています。保護者の皆様の中にもこの経験をされた方も多くいらっしゃるのではないかと思います。しかし、ここ数年はコロナ禍の影響で、参加する生徒や受け入れ側の事業所のことを考え、これまでの職場体験や福祉体験、勤労生産活動などの体験活動ができていませんでした。本年度は再び地域を学び、生きる力を育むために、全県をあげて五日間のトライやるウィークを行うこととなりました。中学生は、自分の希望をもとにそれぞれの体験活動を行うこととなっています。

本校でも、校区となる南中学校と笹原中学校の生徒を受け入れます。まずは本日11月28日から南中学校から数人の生徒が、その後引き続き笹原中学校の生徒が体験活動を行います。

事前の挨拶に来た生徒たちは、2年前小学生だったと思えないほどたくましくなり、立派に挨拶をしてくれました。きっとこの5日間で、たくさんのことを吸収して、今後のさらなる成長に生かしてくれることと思います。

また、本校の児童にも母校に帰ってきてくれたお兄さんやお姉さんの姿から、何かを感じとってほしいと願っています。



2年生「九九学習支援」もいよいよ最終章へ…

本校には、子ども達の学びを地域をあげて支援して下さるボランティア『笹ポーター』の皆様がおられます。この『笹ポーター』は、もともと「学校運営協議会と教職員との交流会」に端を発し、子ども達や教育活動への継続的な支援を実現するために4年前に発足されました。

**SASAHARA
SUPPORTER**

活動くださっている内容は幅広く、多くの皆様にお力添えいただいています。その中でも毎年恒例になってきている大きな支援の一つに、2年生児童を対象とした「九九学習支援」があります。10月中旬から12月初旬にかけての約2ヶ月間、毎日2回、「業間休み」と「給食準備時間」を利用して、九九の聞き取りをしていただき3年目となりました。2年生の子ども達も授業が終わると、我先にと「笹ポーター」の皆さんのもとに「九九カード」を持って喜んでかけつけています。毎日毎日1つずつ繰り返して、一人33回(1~9の各段の上がり・下がり・バラバラと1~9の段すべてを通す3通り)の合格を目指して途中であきらめることなく頑張っています。11月も終盤となり、この「九九学習支援(聞き取り)」も終了者が始まっています。

この九九を通して、子ども達は大きく成長しています。九九の習得だけでなく、挨拶の仕方、大人との受け答えの仕方、計画的な学習の仕方、そして何よりも途中であきらめず頑張ればできるという自信を体得しています。このことが今子ども達に求められている「学びに向かう力」となるとともに、頑張りを認められることにより、それぞれの自尊感情も高まっていることと確信しています。

最後までやりきった子どもの誇らしげな姿や、嬉しそうな声を聞くたびに、これからの人生を支える礎の一部が築かれているように感じます。「笹ポーター」の皆様にも、あらためて心よりお礼申し上げます。



